

令和2年度茨城県教育研修センター外部評価委員会

1 外部評価委員会委員名簿

所 属 及 び 職 名	氏 名
国立大学法人茨城大学 教育学部長	荒川 智
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部総括研究官	橋本 昭彦
独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター長	清國 祐二
株式会社茨城新聞社 代表取締役社長	沼田 安広
有限会社アクティブコンピュータ 代表取締役	鈴木 宏治
水戸市立千波小学校 校長	近重 敦子
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 校長	川村 始子
茨城県立水戸特別支援学校 校長	宮山 敬子

2 実施計画・結果

第1回外部評価委員会	
開催日	令和2年10月22日（木曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・教育研修センターの概要・令和元年度事業実績・令和2年度事業計画・令和元年度外部評価委員会の評価結果・事業評価に関する様式等・研修講座参観・質疑応答
第2回外部評価委員会	
開催日	令和3年2月24日（水曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・令和2年度各事業の実績及び評価・外部評価委員による事業評価

令和2年度外部評価委員会評価票の集計

次の各項目について、該当するものを選んでください。

- A：そう思う
- B：どちらかといえばそう思う
- C：どちらかといえばそう思わない
- D：思わない

1 研修センターの事業について

① 各事業の内容が具体的で分かりやすくなっているか。

② 教職員のライフステージに即した研修体系になっているか。

③ 研修事業について

ア 研修講座は、教職員の資質能力の向上及び指導の改善につながっているか。

イ 受講者のニーズを把握した研修内容になっているか。

ウ 所員の専門性の向上は図られているか。

④ 研究事業について

ア 各研究分野における内容は、国及び県の教育施策を反映した喫緊の課題に対応しているか。

イ 研究成果は、学校教育活動に生かされているか。

ウ 研究発表会は、参加者にとって満足感が得られるものであるか。

⑤ 校内研修支援事業は、学校現場の校内研修の活性化及び課題解決に貢献しているか。

⑥ 相談事業は、児童生徒・保護者等の問題の解決へ向けて適切に対応しているか。

⑦ 教育情報の収集及び提供に関する事業は、教職員の多様な要望に応えているか。

⑧ 研修センターの内部評価について

ア 教育研修センターが実施している各事業の達成目標、達成度評価は、適切であるか。

イ 内部評価は、適切に行われているか。

2 施設設備の整備等について

① 受講者の健康管理・安全管理体制は、確立されているか。

② 施設設備の維持管理が十分行われているか。

③ 障害者に対して十分配慮されているか。

④ 危機管理体制が確立されているか。

⑤ 清掃の状況は行き届いているか。

3 外部評価委員会について

① 開催回数及び時期(7月・10月・2月)は、適切であるか。

② 開催内容(施設見学・研修講座参観等)は、適切であるか。

③ 評価のための資料は、適切であるか。

④ 評価票の項目及び評価方法は、適切であるか。

人数(人) (計8人中)			
A	B	C	D
6	2	0	0
5	3	0	0

6	2	0	0
4	4	0	0
3	5	0	0

4	4	0	0
5	3	0	0
4	4	0	0
5	3	0	0
5	3	0	0
4	4	0	0

7	1	0	0
6	2	0	0

4	4	0	0
3	5	0	0
2	5	0	1
1	7	0	0
6	2	0	0

6	2	0	0
5	2	1	0
4	3	1	0
2	5	1	0

令和2年度茨城県教育研修センター第2回外部評価委員会記録

日時	令和3年2月24日（水曜日） 午後1時30分から午後3時まで
方法	Web会議システムによるオンライン会議
出席者	<p>○外部評価委員 荒川 智 委員 橋本 昭彦 委員 沼田 安広 委員 鈴木 宏治 委員 近重 敦子 委員 川村 始子 委員 宮山 敬子 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター 所長 猪瀬 宝裕 次長 菅野 弘司 次長兼教職教育課長 田辺 光博 企画管理課長 興野 典子 教科教育課長 櫻井 良種 情報教育課長 渡邊 聡 教育相談課長 小松 智樹 特別支援教育課長 岡田 奈奈 企画管理課指導主事 小林 豪 企画管理課指導主事 身内 卓也</p>
次第	1 開会 2 所長あいさつ 3 議事 (1) 令和2年度各事業の実績及び評価 (2) 外部評価委員による事業評価 (3) その他 4 閉会

1 開会

2 所長あいさつ

3 議事

(1) 令和2年度各事業の実績及び評価

・事務局から、資料1「令和2年度事業等の実施状況」、資料2「令和2年度事業に関する100校抽出アンケート結果」及び「ICT教育に関するアンケート結果」について説明した。

(2) 外部評価委員による事業評価（○は委員、●は事務局を表す）

【1 研修センターの事業について】

- 受講後アンケートは、講座の満足度を聞きたいのか、それとも受講者の変容を見たいのかということについて意見を申し上げた。回答では、受講者の変容を見取るため「本日学んだことをどう生かしていきたいか」という自由記述を追加しているとあり、とても大事な工夫をしていると思う。
- 受講後アンケートの設問は、「～を理解できる内容だった」と質問すると高評価の回答が多くなる。それに対して、「自分はその内容を理解したか」「新しいことを考えるようになったか」と質問をする

と評価は下がるが、研修の目的を達成したかを評価できるので、受講後アンケートの設問自体も細かく検討するとよい。

- 今年度は、オンライン等を駆使してセンターの各事業を展開していたと思う。若手教員や中堅教員のコミュニケーション能力を高める研修など、オンラインを併用しながら研修を充実させていきたい。
- オンラインによる実施は、評価が分かれてしまうところがある。大学のオンライン授業も学生の評価が大きく分かれてしまい苦慮しているので、うまく両立できる方法を模索する必要がある。

【2 施設設備の整備等について】

- オンライン研修において、ICT機器にトラブルが生じると、受講者は不快な状況の中で研修を行うことになるので、ICT関係の設備については、照明器具やマイクなどの付属設備も含めて早急に拡充する必要がある。
- 「障害者に対して十分配慮されているか」の項目については、整備の必要性を上げるためにあえて「D」とした。障害のある方が教員採用試験に合格している事例があるので、多目的トイレの表示を目につきやすくしたり、実際に車椅子で館内を点検したりするなど、障害のある方の立場に立って整備をしていただけるとよい。
- 大学でも障害のある方が受験し入学しているので、障害者への配慮は重要なことになっていく。
- 聴覚障害者への配慮について、今までは手話通訳を依頼していたが、最近は字幕が簡単に入るソフトもあるので、そのようなソフトの導入計画はあるか。
- 今年度の受講者に聴覚障害の方がいたので、合理的配慮として手話通訳と字幕アプリを利用した。受講者は研修内容に応じて、手話通訳と字幕アプリを選択して利用していた。

【3 外部評価委員会について】

- 研修講座については、アンケート等の資料があったので判断できた。施設整備については、今年度の保守を計画的に整備していることは分かるが、健康管理・安全管理体制は資料が示されていない。また、障害者への配慮については、バリアフリー等の状況は分かるが、それが十分かというところまでは分からなかった。センターとしてはこのような取組をして、今のところ十分にできているという説明をしていただければ判断しやすくなる。
- どのような研修をしているかの説明を聞くだけでなく、委員の立場で研修に参加する機会を設けていただくと研修の状況がよく分かるのではないか。
- 今年度は例年の形で会議を開けなかった。評価資料は例年以上に情報が必要だった。
- コロナ禍において、研修の在り方を変えてきたと思うので、外部評価委員の評価項目も変えていく必要があるのではないか。
- 今年度は評価項目を変えてもよかったのではと書かせていただいた。外部評価の評価、メタ評価も必要になってくるのではないかと感じた。

(3) その他

- ・事務局から今後のスケジュールについて説明

4 閉会